

## 初期浸潤子宮頸癌に対する広汎性子宮頸部摘出術

浸潤子宮頸がんの治療法は進行期ごとにガイドラインで治療が推奨されています。子宮を温存できるのはリンパ管や血管に癌が入り込んでいない微小浸潤癌 I A1 期までで、それ以上進行すると一般に広汎子宮全摘出術または放射線療法が行われ妊娠は不可能となります。

当院では妊孕性温存希望(子宮温存)の強い初期の浸潤子宮頸癌の患者さんに対して、子宮の体部を温存する広汎性子宮頸部摘出術を行っています。

- ① 臨床進行期 I A1 期でリンパ管や血管に癌が入り込んでいる場合、I A2 期または IB1 期で腫瘍径が 2cm 以下
- ② 組織型(癌の種類)が扁平上皮癌もしくは高分化腺癌
- ③ 術前の画像検査で子宮以外に進展やリンパ節の転移がない

子宮頸部を摘出した時点で、がんが残っていることやリンパ節への転移があることが明らかになった場合は、標準的な手術(子宮全摘出術)に変更します。最終的な病理組織検査の結果、追加治療(手術、化学療法もしくは放射線治療)が必要となることもあります。

